

県内版

おたまじゃくし

〈将来は芸術家?〉
私 三日月きれいに見える
孫 僕、きれい好きなんだ
いけや・りく(3歳) 東
浦町、祖母・池谷久子

〈どうして?〉
動物園でゾウに向かっ
子 ああちゃんが遊びに来
たよ。あんなに大きな耳な
のに聞こえないのかなあ!

ああちゃんが遊びに来たよ
さわだ・あかり(4歳) 母・沢田りつ子
守山区、母・沢田りつ子
〈味見〉
(食事の支度をしていた)

子 お手伝いする
私 何やってもらおうかな
子 何食べるの?
いなば・けいと(4歳) 母・稲葉真由美
岡崎市、母・稲葉真由美

『空中牧場』 砂漠を緑化

牛や馬に頭上の餌も食べてもらい、砂漠化を防ぐ。中国・内蒙古のホルチン砂漠で、長久手のNPO法人「どんぐりモンゴリ」が角和保理事長(左)が取り組んでいる「空中牧場」が軌道に乗ってきた。木の葉を家畜の飼料として草地を保全するユニークな緑化策。過剰な放牧による砂漠化を食い止め、日本にも飛来する黄砂を防ぐ試みだ。

長久手のNPO法人、中国で

通遼から南西へ約百キロ、砂漠の中の額勒順(ウルスン)という町。葉と実の栄養価が高いブナ科のモンゴリナラを、空中牧場の実験場。

モンゴリナラ 植樹・低木化 家畜頭上にえさ



モデル緑化の進む烏雲森林農場(約三百六十畝)の一角で整備が進んでいる。危険性を減らし、土地の乾燥を防ぐ仕組みだ。葉は収穫もして枝とともに粉砕、発酵させ飼料にする。

下草守り黄砂防ぐ

県内外に約七十人の会員がいる「どんぐりモンゴリ」は、角和理事長らが三年前の春、現地を訪れ約百本のモンゴリナラを植樹。この夏、現地を再訪し約五十本に育った苗木を確認した。現地の人たちへの緑化技術の指導にも尽くしており、今後は苗木が成長するまで息の長い活動にしていきたい。



「モンゴリナラを2倍の高さで育て、葉を家畜に食べさせる」と意欲を燃やす角和保理事長。中国・額勒順で

角和理事長は試験木の順調な生育に手応えを感じた様子で「植林木数を中国の砂漠化を防ぐ活動には、日本国内の多くの団体、企業などが活動しているが、空中牧場の取り組みはユニークさで際だつ。共同研究を進めている全国組織「沙漠(さばく)植林ボランティア協会」の菊地豊会長(左)は「太陽エネルギーを地表の牧草だけでなく、高い所でも家畜の餌に使う立体的、効率的な方法だ」と評価している。

